

(件名) 県スポーツ協会等に内部告発者が守られる仕組みの早急な作成について

陳情の趣旨

1, 初めて内部告発者の家族となり孤立無援の心細さを痛感しました。数年前から●●は「みんなのお金である。会計報告がおかしい。」と考え込んでいました。その日の会は、異様な雰囲気だったと。その二か月ほど前, ●●が高体連本部に会計報告の有無を尋ねたところ「今後この事は外に出さない」と署名をするよう、隅に座らされ全員に迫られた。会長以下それを止める人は一人もいなかったと。

JRで帰宅するや「一瞬、列車に飛び込もうかと思った一一」と。この年齢で、自尊心も傷つけられ、やっとの思いで帰宅しました。

2, 気遣い、励ましてくれた友人たちの存在

最近では兵庫県庁の局長, 課長の二人の自殺等「内部告発」を理由にした悲劇が起こっています。自死が報じられる度に他人事と思われません。ご本人の思いとご家族の心痛を思うと胸が痛みます。自死に至る前に他に方法はなかったのか, 相談できる人は, また相談窓口とかなかったのか, 考えさせられます。

●●は今, 命を長らえています, その当時は混乱し精神的にダメージを受けていました。しかし, 大丈夫かと気遣い励ましてくださる友人, 知人が多くあったので, ここまで来られました。

3, 内部告発をしようとする人は自分の利益の為ではなく組織の不正が正される事を確信し行動していると思います。滝壺に飛びこむような気持ちでしょう。

県テニス協会は, 内部告発者として●●を解任, 除名にしました。二年後, 理由も謝罪もなく僅か二行の文書で除名を解除すると通告してきました。告発者がどんな覚悟で行動したのか想像されたら違うものになったでしょう。

4, 「公益通報者保護法」という言葉を最近よく聞くようになりました。

今年5月21日NHKクローズアップ現代で「内部告発を社会の利益に」のタイトルで数人の内部告発者が取り上げられました。結果としては職場異動, 退職などに追い込まれています。●●の場合は除名です。実質は永久追放です。

内部告発者と協会に意見をした人たち等の排斥は, 「正しい内部通報者は守らなければならない」という「公益通報者保護法」の精神に背くと思います。

【陳情項目】

悲劇をこれ以上起こさないために, 内部告発者の相談に真摯に対応し, サポートできるようなシステムが, 県スポーツ協会等の中に早急に作られることを, 内部告発者の家族として強く陳情します。